

謹啓。寒冷の雨の昼下がりになりました。

「淀川推計流域委員」のご隆会、心よりお慶び申し上げます。

熱い、意見に直接触れることができ、自分の論考の至らなさを痛切に感じました。

また、クラシカルな視点でやはり論争になることを知りました。

「淀川教室」の件ですが…。「教育」は誰の手に？ は古くて、新しい問題と思います。

為政者は教育を全て抱えたいものです。でも！ 「体験する淀川」では子供たちの自由な発想が欲しいのだと思います。

何度も出てましたが「海の魚が、どうして淀川で釣れるの！？」は『伊東家の食卓』風は「釣れるから釣れる」のですが、沢山釣れるのかどうか、姿形はどうか、棲み別けと器官の変化など、大変な問題になります。そして、子供たちを実習に連れ出す「安全・衛生」問題が重要になります。何処かで出ていた「整備」と「体験」の二律背反を含んだ、大きな問題と言えるでしょう。

私は、個人的に『関西のダムと水道を考える会』のデータに素朴な疑問があります。

① 余った水は何処に行ったのか。

② 今、水源は何処なのか。

の、二点です。計算上余る水ですが、何を指して「余る」と言うのでしょうか。渇水で琵琶湖の水量の減少が日々伝えられます。暑い夏の日々は、一メートルを越えます。

毎日見る、宇治川の観月橋のスケールも大きく、浮かび上がります。それでも、「水は余っている」のでしょうか。

渇水は計算でなく、活きる余裕だと思えます。

こんな考え方は、一方的でしょうか。本当に余裕があるなら、私たちは水を無駄にせず、暮らさねばなりません。

こんな、本当のところの啓蒙も宜しくお願い致します。

気がついたことを書きつづりました。

夕方から、予定があり、4時過ぎに失礼致しました。

有り難うございました。今後ともどうぞ宜しく、ご指導ご鞭撻のほどをお願い致します。

最後になりますが、皆様のご発展とご健勝祈念致します。

右の壁際で、ビデオを構えてられた女性の方ですが、お身体大丈夫ですか。大分風邪が苦しくて咳き込んでられました。ご自愛下さい。失礼致します。敬具

佐竹 孝夫・九拜